別紙様式

「ことばの教育」パイロット校事業　報告書

学校名	府中市立第二中学校
校長名	柏　紀雄
所在地	府中市元町５０１番地
ＨＰ	http://www.edu.city.fuchu.hiroshima.jp/~ni-chu/
学級数	１２学級（３７６名）
タイプ	Ⅰ　・　Ⅱ

１　研究の概要

（１）研究主題

「論理的思考力・表現力の育成」

～コミュニケーションの道具としてのことばを鍛える～

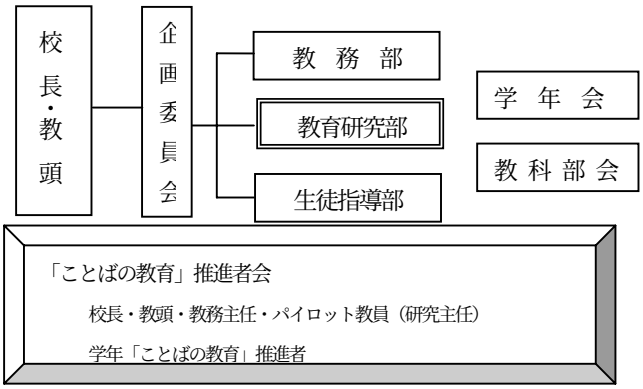
（２）研究のねらい

本校では、平成１５、１６年度の二年間、道徳の研究に取り組む中で、自己の生き方を見つめる生徒が増え、落ち着いた学校生活が送れるようになってきていた。

しかし、コミュニケーションに関わって、正確に聞く力が不足していることや筋道を立てて相手に「話すこと」、「書くこと」の苦手な生徒が多いという課題があった。

これらの課題に対しては「ことばの教育」が大切であると考えた。そして、道徳、各教科・領域において、読む・書く・話し合う・プレゼンテーション等の言語技術を生かすことや、考えを発表する時に理由や根拠が言える力を育てることを中心に論理的思考力・表現力の育成に取組むことにした。

（３）研究組織・体制（研究組織図）



２　２年間の取組みの概要

（１）１年目の取組み

授業では・・○受け答えの技術（「問答ゲーム」）の導入

・主語（だれが）
・結論先行（立場、意見をはっきりと）
・理由をつけて（客観的な理由か）

授業以外では・・○基本的言語技術の習得

全校一斉　・ことばの時間（２学期毎週水曜日暮会）
「問答ゲーム」「紙上問答ゲーム」
「新聞を読んで」

（２）２年目（今年度）の取組み

○　聞く力を育てるための表現力の育成

・「様々な角度から分析した」意見を交流する。
・グループの意見を聞いて整理、発表する。
・自分の意見をまとめる。
　論理的に表現できる生徒は論理的にも聞くことができる

○　授業のねらいにせまるための言語技術の利用

①言語技術を効果的に取り入れた授業づくり

意見の言い方（発言の仕方）

こんな言い方をすると、周りの人によく伝わるよ

意見・考え・感想を言うとき

○「わたしは（ぼくは）、○○○だと思います。（結論）
なぜなら（理由は）、△△△だからです。」（理由）

付け加えるとき・別の理由があるとき

○「わたしは、Aさんの意見に付け加えます。・・・・・・。」
「わたしも○○○だと思います。なぜなら□□□だからです。」

【実践例１】数学「一次関数」：理由をつけて発言する場面

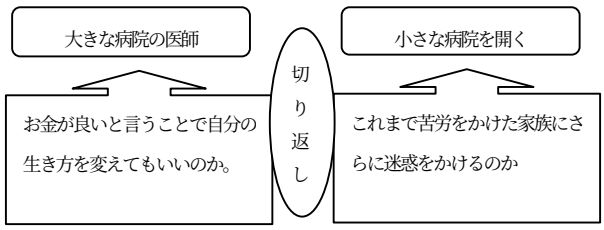
Ｔ「これは一次関数でしょうか？」
Ｓ「違います。」
Ｔ「そのように考えたポイントは？」
Ｓ「ぼくは、一次関数じゃないと思います。理由はＹの増加量が一定でないからです。」

【実践例２】音楽「歌い方の工夫」：分析と説明

○グループに分かれて練習する。
○グループごとに工夫点を説明し、発表する。
　工夫のポイント
　・誰に対して歌うのか（相手意識）
　・繰り返す言葉に注目させる（大事な言葉）
　・楽譜から読み取れること（音楽的根拠をはっきりと）
○他のグループの発表を聞き、気づきを書く。
　他のグループの発表から学んだことに触れて自分の言葉でまとめる。（自分の視点との違いを明確にする）

【実践例３】道徳「理想の実現」：視点の移動

○「何を重視して職業を選びますか」
○「主人公が工場医をやめることにした理由は何ですか」
○「あなたは、主人公からどちらの道に進むか相談されたらどのようなアドバイスをしますか。



○「主人公の生き方について自分の考えを書きなさい」

【実践例４】総合的な学習の時間「広告づくり」：説明

○職場体験学習でお世話になった事業所の広告づくり
・事業所の特徴を明確に（キャッチコピーをつけて）
・伝える相手を意識して
○総合的な学習の時間には言語技術が欠かせない。
・「メモを取る」　・「まとめる」　・「発表する」

②記述式問題を取り入れた定期テストの作成
③「ことばの時間」の特設
毎週水曜日の暮会を「ことばの時間」として位置づける。
・受け答えの訓練（数回）　・１分間スピーチ
・新聞を読んでの意見文づくり　など
④「論理的思考力・表現力」にしぼった授業研修
⑤各教科で工夫した実践事例の作成
⑥ことばの環境づくり（上記①～⑤以外）
・あいさつ（コミュニケーションの基本として）
・言語技術教室（パイロット教員による言葉教室）

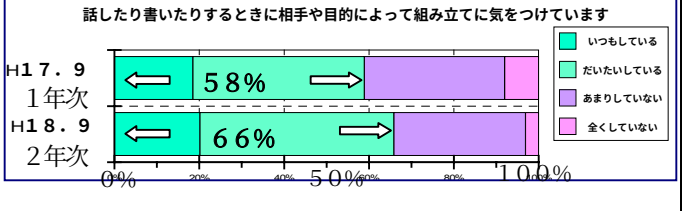
第５回 言語技術教室　（　10月３日朝会　）
（話し方を学ぼう・生かそう）
「多くの人の前での話し方」　まとめて話そう、はっきり話そう
○言いたいことをまとめよう
・自分の気持ちの何を伝えたいのか、本当に言いたいことは何か、しぼりましょう。あれこれ言われるときわかりません。
・時間や人物などは順序よく、関連することはつなげて、など整理整頓を。
○原稿をできるだけ読まずに言おう
（以下略）　（言語技術教室の内容例）

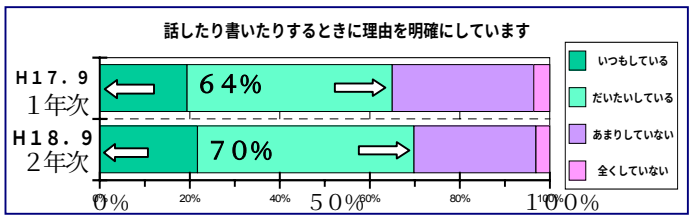
・生活ノート「しらゆり」での日々の作文
・生徒会指導（生徒のリーダーとしての話し方）
・二中文芸（作文・韻文・感想文等）の充実

３　研究の成果と課題

（１）成果

①生徒の「論理的思考力・表現力の育成」につながっている。





・授業において、自分の考えをまとめ、表現し、学び合うことを繰り返すこと。スピーチや意見文づくりに取り組むこと。これらを繰り返すことが、生徒の意識を変え、「論理的思考力・表現力」の育成につながっている。

【事例1】（スピーチの場面で）
○生徒の意識変化

３年生のある生徒がいる。作文を書いたり、人前で話したりすることが苦手でできないと泣いていた生徒である。この９月にスピーチの順番が回ってきた。その生徒は、話す内容を箇条書きにしたメモを持ってきて担任に見せた。決して上手であったとは言えないが、話す内容を整理し、みんなの前で顔を上げながらスピーチを行った。

【事例2】（記述式問題において）
○無回答率の減少

（2年生国語）
1学期中間テスト　「育海にはおかしかった　とあるが、なぜおかしかったのか。『このとき』『いつも』という二つのことばを使い、40字以内で答えなさい。」
無回答者数　13／116名
2学期中間テスト　「学習したことをふまえて、人間のきずなとはなんだと思うか。2段落構成100字以内で答えなさい。」　無回答者数　7／116名
○要求される字数が増えているが、無回答率は減っている。繰り返し指導する中で技術を身につけてきつつあることの表れである。それは、2学期の回答者109名の内、二段落構成で書いた生徒が101名、結論先行で理由も付けることができた生徒が93名であることからもわかる。

②教職員の意識が向上している。

	平成17年12月	平成18度12月
「構造的な板書」を意識している	52%	84%
「構成を考えて」話している	76%	85%

③豊かな心でコミュニケーションできる生徒が増える。
ある生徒の話が他の生徒の心を打つ。そして自分との関わりをまとめることができる。豊かな心でやりとりできる。そんな生徒が増えている。

（２）課題

①生徒は、理由を明確にして話したり書いたりすることができるようになったが、状況を把握して話すことにまだ課題が残る。今後、説明の技術を活用する場面を取り入れたい。
②指導者は、言語技術の型を習得して授業を進めてきたが、指導者が言語技術を学ぶ時間の確保が不十分であった。効果的な研修を行いたい。

（３）今後の改善策等

①言語技術を活かしたさらなる授業改善
・論理的思考力の具体的な評価方法の工夫
・聞く力の向上を図る取組みの工夫
・教科の壁を越えて取り組む学習規律（スタイル）の創造
②「ことばは習慣」（繰り返し）
・　語彙の不足を補うことにもつながる読書の工夫